



スゴい人になる

年末ごろの2年生の事実上引退を機に、自分の属する部の運営を支える役になった人もいることだろう。一方、いよいよ新入生を迎える側としての自覚が生まれるに従って、自分は「先輩」として振る舞うことができるのか、例えば、自分よりもその分野で優れた後輩が入部してきたら、自分はどのような先輩になったらイイのだろうか、と考えている人もいるに違いない。

そう簡単に答えの出せる問題ではないが、そんなこともあって昨日の通信を書いたのである。大切なことは、「それが好きだ」という気持ちだろう。その気持ちさえあれば、道は開かれるはずである。君たちだって、先輩や友人の姿を見ながら、「あ～、あの先輩(友人)は、〇〇が本当に好きなんだなあ～」と感じたことがあるはずだ。そして、そういう先輩(友人)の姿から、少なからず影響を受けているのではないだろうか。

勉強の成果が上がらずに、部活をどうしようかと迷っている人もいるだろう。ただ、これはある程度結論ははっきりしていて、今までの担任の経験からいえば、「引退前に部活を止めたからといって、成績は必ずしも向上しない」というのが結論である。

部活に掛けていた時間を確実に学習時間に充てることができ、しかもその学習を自らの意志できちんとこなせば成果は上がる。しかし、部活を止めたなら学習時間が確保されるようになるというのは幻想であって、つつい余計なことに費やしてしまったり、気分転換ができないまま、効率の悪い時間の使い方をしてしまったりするのがオチである。むしろ、部活をしていた時の方が集中して学習に取り

組むことができ、暗記ものなどは効率的に進んだりするものだ。毎年現役で第一志望に合格する生徒のほとんどが、部活や行事で大活躍をした生徒であることを見ても、この結論の確かさがは明らかだといえるのではなからうか。

いや、それはその人が「スゴい人」だったからであり、自分のようなモノにはとても無理だと思っている人がいるかも知れないが、ここで大切なことは、その「スゴい人」とはどんな人かということである。

もう予測はつくと思うのだが、「スゴい人」というのは、自分の学習をしっかりコントロールできる人ということである。「部活がある、だから今日は〇時間しか勉強できない、とすれば、■の予習に絞ろう」とか、「週末は練習試合で勉強できないから、今日のうちにここまでやっておこう」とか、「課題の提出日が△日だから、半分を火曜日にやって、残りを木曜日に仕上げよう」とか、「単語テストの準備は、夕食前の10分間に集中して」といったように、自分の性格やスケジュールを踏まえながら、やらなければならないことに順位付けをし、それにふさわしい計画をサッと立て、しかもそれをきっちり実行することができる人が「スゴい人」なのである。

で、おそらく部活を止めようかと迷っている人は、この部分で「スゴくない人」なのではなからうか。とすれば、部活を止めるのではなく、まずは部活をやりながらも勉強に取り組むことができる「スゴい人」となることを目指すべきだろう。それは、今後も続く受験勉強必勝の秘訣でもあるのだから。